

職員の負担軽減及び処遇の改善のための取り組み計画

多職種連携

部署	項目	取り組み計画
リハビリテーション科	<ul style="list-style-type: none"> 患者の送迎 トイレ介助 嚥下評価支援 リハビリ介入時間提示 	<ul style="list-style-type: none"> リハビリ時の患者の送迎 トイレ動作や嚥下の訓練を日常生活で行う 日々の介入時間を病棟側に提示する
臨床検査室	<ul style="list-style-type: none"> 採血の実施 患者移送の介助 ベッドサイドでの検査（12誘導、エコー検査、） 	<ul style="list-style-type: none"> 検査のための患者移送は検査技師が実施 移動困難患者の検査をベッドサイドで実施 自己血糖測定の指導
放射線科	<ul style="list-style-type: none"> 患者移送の介助 検査の介助 	<ul style="list-style-type: none"> 放射線科職員が送迎を行う 心エコー（担送患者はベッドサイドで行う）
栄養課	<ul style="list-style-type: none"> アレルギー調査 	<ul style="list-style-type: none"> 管理栄養士がアレルギー調査を行う
医事課	<ul style="list-style-type: none"> カルテ管理 カルテ入力管理 	<ul style="list-style-type: none"> カルテ監査業務 コストなどカルテの整合性確認、管理
地域連携室	<ul style="list-style-type: none"> 転院、紹介入院の調整 入退院支援 	<ul style="list-style-type: none"> 各種問い合わせの窓口業務 MSWと看護との協働での業務分担
看護補助者	配置強化 業務分担	<ul style="list-style-type: none"> 配置人数の増員 業務拡大の検討、実施

勤務環境、処遇の改善

項目	取り組み計画
妊婦、子育て中の職員への配慮	<ul style="list-style-type: none">夜勤免除、削減時短勤務、育休延長制度など子の看護休暇制度
年次有給取得の促進	<ul style="list-style-type: none">有休休暇取得を平等に取得できるよう勤務表作成1時間ずつ有休取得出来る制度
配慮した勤務表作成	<ul style="list-style-type: none">明けの翌日は原則休み連続勤務5日までとする日本看護協会ガイドラインに準じた勤務体制年間123日間、月平均10日公休 各病棟3人夜勤体制(東3階以外)遅番早番勤務配置による繁忙時間帯の業務分担配慮業務に必要な研修、院外活動、グループ行事の勤務扱い
看護職員の適正配置	<ul style="list-style-type: none">法令人数配置より余剰を有る配置数とする看護職員の積極的な募集活動、採用活動
メンタルサポート	<ul style="list-style-type: none">希望者には産業医によるカウンセリング実施院内ハラスメント窓口設置、対策実施、勉強会(eラーニング)

看護職員の負担軽減及び処遇の改善に資する体制

1. 看護職員の負担軽減及び処遇の改善に関する責任者

院長 高田信幸

2. 看護職員の勤務状況の管理

勤務時間

- 週平均 40 時間以内
- 連続勤務 5 日以内
- 勤務状況、有給取得率、時間外業務の把握、指導

夜勤勤務

- 明けの翌日は原則休み

3. 多職種からなる役割分担推進のための委員会及び会議
4. 看護職員の負担軽減及び処遇の改善に資する計画

計画の策定、年に 1 回の見直し、職員への周知（部署内掲示）

5. 看護職員の負担軽減及び処遇の改善に関する取り組みの公開

院内に掲示、ホームページ上公開